

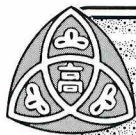
母校創立90周年記念号

1990. 3. 24 第4号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校 同窓会 高崎市稲荷町20 電話(0273)62-2585 発行責任者 斎藤 民 印刷所 ほその印刷

わたしたちの同窓生

会員数 24,644名 在校生数(全・定) 1,266名 平成2年3月24日現在



同窓会報

椎の樹



群馬県立高崎女子高等学校 創立90周年記念演奏会 平成元年5月7日



強固な絆 記念事業の完了に思う

高宮正夫 校長

去る十一月の「高女九十年史」の上梓をもって、創立九十周年記念事業はすべて完了いたしました。まさに驚異的な「力」の結晶と思われてなりません。昭和六十一年十月、実行委員会が結成されて僅か三年の間に、図書館・L.L教室・椎樹館合宿施設への冷暖房の完備、棟間通路の建設、松樹館の新築、校史の刊行という壮大な計画がみごとに為し遂げられたのですから。 「高女ならではの」と深い感慨に浸っているのは、私ばかりではありません。 清澄極まる記念式典・祝賀会、聴衆を魅了した記念音楽

会、高雅な雰囲気にも包まれた総会・京浜同窓会等々、卒業生諸姉の集まりには、つねに心惹かれるものがあります。「賢母良妻」の建学精神を脈々と受け継ぎ、校歌に詠まれている訓えを確かに身につけているからでありましょう。以心伝心、それらは後輩の在校生たちを感化し、現在の校風の「核」となったに違いありません。 御多忙を極める斎藤会長をはじめ役員各位が実に頻りに会議をしておられる点にも、心うたれております。会務の運営もさることながら、記念

事業の推進に力を注がれたためでありましょう。まったく感謝の申しようもありません。 大方の予想どおり、平成元年「己巳」の歳は、国の内外ともに波瀾万丈のうちに明け暮れました。しかし、幸いに、本校では申し訳ないほど順風満帆な日々を送り迎えることができました。進学の成績や、体育・学芸の部活動の成果も十分とは申せませんが、まずまずの水準に達しております。 「単なる進学校にとどまるを潔しとしない」気風がさらに深まっていることをまことに嬉しく思っております。 新しい世紀も近くなりまして、「輝く現在を永遠に」と願う後輩のため、いっそうお力添えください。校運の隆昌を祈念して稿を終ります。

高女創立90周年記念演奏会が平成元年五月七日(日曜日)に群馬音楽センターで盛大に行われました。在校生と同窓生による記念演奏会では、吹奏楽部、マンドリン部、音楽部、三団部、吹奏楽愛好会、の三団部で、同窓生は若手による独唱、重唱、ピアノ及びオーボエ演奏のほか、同窓生合唱団を結成し出演しました。 ここでは同窓会合唱団についてお話をさせていただきます。まだ残暑の一昨年(昭和六十三年)九月末に発声式を行いました。前回85周年演奏会と同窓会合唱団として出演された方々もたくさん見えました。高校時代に音楽部で合唱されていた方、現在おかささんコーラスなどで活躍し、合唱を生活の一部になされている方、大学生など年令、経験などのさまざまな人々が同窓生

の名のもとに集まりました。そして楽譜を手にした瞬間からもう合唱団としてのまとまりが生れたのは、同窓生としての連帯感にはかならないと感激いたしました。 練習は月二回で日曜日午後や金曜日夜などに行い追加練習も行いました。三人の指導者(斎藤民同窓会長、橋本節子先生、そして私)が交替でした。最初はどなたも遠慮がちな歌い方でしたが、回数を重ねるにつれ高校生に戻ったような元気で次第に大声が出るようになりました。 そして当日、練習を十分に積んだ若い在校生の演奏の次はいよいよ私たち、同窓会合唱団50数名の登場です。会場を埋めつくした満員の同窓生の暖かな拍手は不安な気持ちでひな壇に並んだ私達を勇気づけ応援してくださいました。 はじめのステージは私の指揮で「お江戸日本橋」「時無草」「チリビリン」の三曲を、二ステージは橋本先生の指揮で「夏の思い出」「野葡萄」「祭と花と娘」の三曲を歌い、最後は在校生との合同合唱で「流浪の民」「ハレルヤコーラス」の二曲を斎藤先生の指揮で声高らかに歌い上げました。更にしめくくりマンドリン、吹奏楽の伴奏にのり会場の同窓生とステージと一体となり「校歌」を歌いこの日の幕を閉じました。会場の皆様には高女の団結力と演奏にご満足いただけたと思います。合唱団にご参加くださった方々はそれ以上に感慨深かったことでしょう。 『このような機会には次回も是非参加したい』という、うれしい声も多く聞かれました。95周年、100周年記念に再び演奏会開催の折は今回以上の多くの同窓生と歌いたいと思います。高女のますますの発展をお祈りいたします。

九十周年 記念演奏会 赤羽洋子(高14回)

プログラム

- 《在校生》 ①吹奏楽愛好会 ②マンドリン部 ③音楽部 《同窓生》 ④同窓会合唱団 ⑤独奏 ⑥オーボエ ⑦同窓会合唱団 ⑧二重唱 ⑨ピアノ ⑩独唱 ⑪合同合唱 ⑫全員合唱



ごあいさつ 同窓会長 斎藤 民

同窓会員の皆様お健やかに平成2年をお迎えの事と存じます。昨年は平成という新元号が制定され記念すべき年でございますが、母校高女もこの年に90周年というまことに意義深い年を迎えたのでございまして。顧みますと、図書館・合宿室の空調設備、校舎と椎樹館とを結ぶ棟間通路。資料展示の松樹館の建設。そして最も期待されました「高女90年史」が無事刊行され多彩な盛り沢山の記念事業が完了いたしました。 同窓会ではこの90周年をお祝いしまして、在校生をまじえて同窓会主催の音楽会を

昨年5月7日群馬音楽センターで催しましたところ、皆様のご協力によりまして沢山の同窓生ご参会のもとに盛會裡に終了出来ました事まことに有難く御礼申し上げます。 この度、会報第4号をおとどけいたします。昨年は経費節減のため紙面を小さくいたしました。今回は90周年記念号という形を取りました。紙面の都合で仲々思うようになりませんが、会報編集委員の皆様が色々ご苦勞下さいまして立派なものが出来ました。同窓生の皆様の中には、多才多能の方がたくさんいらして各方面にそれ

音楽会でのひとこま



# 感謝状の贈呈と祝賀会

平成元年六月三日(土)に総会と母校創立九十周年を記念して祝賀会を、高崎ビューホテルにて行ないました。

その折、永年役員として御協力功勞下された、左記の方々に感謝状を贈呈致しました。

松田松枝(7)、新野カツ(12)、神保充子(14)、麻生クラ(21)、重田光枝(23)、児玉桃代(24)、戸塚咲(26)、高尾まつ(28)、中原ちよ子(29)。

## 地区別幹事

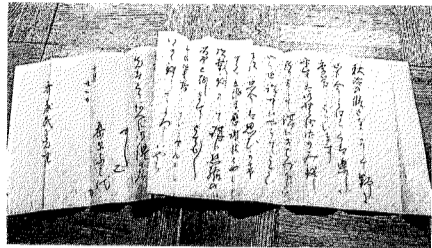
桑原フミヨ(22)、矢野蝶(24)、坂井そめ(24)、矢内益子(25)、原田な加(26)、湯浅稲子(26)、中尾光枝(27)、柳澤フミエ(28)、小坂橋よし江(28)、岩田ヨシ(28)、折茂君子(28)、大熊アサ(29)。

## 期別幹事

牧野なか(18)、小島ツル(18)、小島とめ(20)、塚越かず江(20)、清水マツ(21)、佐々木千代(24)、広岡キク子(24)、武居豊野(25)、内田ちよ(25)、森ヒデ(25)、山崎シゲ(26)、平形秀子(26)、上原千代(26)、木暮文子(27)、村尾キク(27)、湯浅愛子(29)、木村キミ(29)以上三十八名。

また、祝賀会は、高13回が当番で準備が進められ、当日学校長高宮正夫先生、PTA会長清水英徳氏よりご祝辞をいただき、女12回新野カツ氏の幹杯の音頭により開宴となりました。

祝宴には、女34回堺徳子氏の謡曲、女45回下田和子氏、女46回綿貫律子氏、高5回山田樹世子氏の三人による長唄



感謝状の返信 桑原ふみ代さん (22回)

私が入学致したのは大正十二年で、当時遠隔よりの通学不能の為に寄宿舎へ入りました。寮は南運動場を前に向うに藤棚の見える長い廊下続きの南、中、北の三棟ありました。今と違つてほとんど小学校を卒えたばかりの入学ゆえ心細く故郷恋しさに藤棚の下で涙した事も度々でした。この頃の制服は筒袖に短かく



特別寄稿

高女よ永遠に  
母校の博物館 松樹館  
教頭 奈良部清満

平成元年の秋は、木々の葉を陽に透けて輝かせながら、足早に通り過ぎていった。校門の右手、創立九十周年を記念して建てられた松樹館は、鉄筋コンクリート二階建、床面積は約二四〇平米の規模である。一階は資料保管のための収蔵室と学校の変遷を示す第一展示室、二階は卒業生の作品を主とする第二展示室及び栄光の記念品を中心とした第三展示室で構成されており



はいた袴姿でした。そして袴の裾に緑と白に染めわけたレースで「三がい松」の章を編み付けるのですが、慣れない手で編むのは一苦勞でした。それを側で優しくご指導して下さいました上級生の方、母とも姉とも思われて今でも決して忘れません。

花吹雪を浴びて思いきり駆けまわったあの中庭でのテニス、夜を徹しての友との語り。当時の友達との絆は学び舎を築立った今日も楽しい時、嬉しい時、悲しい時、又辛い時、いかなる人生の節目にも暖かく、そして力強く支えて下さいます。幸も、やはりあの同じ窓で学んだお陰と改めて感謝致します。

数々の歴史と共に移轉致しました稲荷町の新校舎を訪れました時、時代の流れに則した女性を送り出すにふさわしい、あの堂々たるたたずまいを見まして何よりの心強さを感じました。

これからの子が育ち孫が育ち又曾孫が育つ、そんな思いで限らない高女の発展を楽しみますと同時に同窓会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。御礼の言葉と致します。

れた時代だ、などと軽々に言われますが、心に深い傷を負っている人も少なくありません。現役の高女生にとっても決して生き易い時代ではないのです。そんな時、同窓の先輩諸姉の青春の証しが、彼女達をどれほど力づけてくれるか知れません。

松の木は、厳寒にも暑熱にも表情を変えようとはしません。しかし、よく観れば、少しずつ古い葉を落としながら、次々と生まれ代つております。松樹館は、永久不変の象徴としてあるのではなく、高女の永遠更新のシンボルとして存在すべきものです。同窓の皆様が学校を訪れた際には、是非、お寄り頂きたいし、また、お手許に埋もれている資料をお持ち頂きたいと、心から願っております。

九十周年の歩みは、日露戦争、第一次大戦、関東大震災、経済恐慌、日中戦争から太平洋戦争、敗戦の屈辱から戦後復興、そして、経済大国への道、などが脳裏をよぎるように、激動の近代日本の歴史のなかに歳月を刻んで参りました。明治二十二年、群馬県高等女学校として本校が呱呱の声をあげた時、『あ、辛い、辛い、最早婦人なんぞに生まれはしませんよ』という浪子の嘆きに、全国の女性が紅涙を流した「不如帰」がベストセラーになっていました。つまり、女性の歴史にとつても、並々でない年月であつたわけですね。現代は恵ま

れた時代だ、などと軽々に言われますが、心に深い傷を負っている人も少なくありません。現役の高女生にとっても決して生き易い時代ではないのです。そんな時、同窓の先輩諸姉の青春の証しが、彼女達をどれほど力づけてくれるか知れません。

松の木は、厳寒にも暑熱にも表情を変えようとはしません。しかし、よく観れば、少しずつ古い葉を落としながら、次々と生まれ代つております。松樹館は、永久不変の象徴としてあるのではなく、高女の永遠更新のシンボルとして存在すべきものです。同窓の皆様が学校を訪れた際には、是非、お寄り頂きたいし、また、お手許に埋もれている資料をお持ち頂きたいと、心から願っております。

夏休みを経過した時点で、初期の目標どおり十一月発行の目安がたつたのです。

資料の羅列を避け、読み易い通史とすることを心がけ、内容的には施設や教育内容の変遷、生徒の生活、思い出の記などを収録したのでありますが、その実があつたかどうか、不安な面もあります。でも、この本が同窓生在校生の心の糧となつてくれるものと信じています。

一般に、伝統ある学校の校史は簡単には出来ません。この時に「高女九十年史」を座右におけることは、考えようによっては幸せのことかも知れません。同窓生各位の愛情溢れたご購読を期待して止みません。

現在、頒布中です。直接学校までお申し越しください。頒布価格は五千円、送料五百円です。

## 九十年史の編集を終えて

編集委員長 持田 章

同窓会報「権の樹」第三号で、その発行を予告した「高女九十年史」が予定どおり刊行され好評に頒布が行われております。すでに手にしてお読みいただいた同窓生も多しことと思ひます。上下巻千七百頁からなるこの本は本校初の学校史であり、関係者の等しく切望するものであります。

九十周年記念事業の一環として「松樹館」建設などとも企画されたものですが、実際の編集業務が動き出したのは昭和六十一年六月の編集委員会の発足からでした。しかし、最初の一年はそれまでに蓄積されていた膨大な資料の整理や度重なる打合せに終始する状態でした。基本方針の検討、執筆分担、校外への応援要請など、前途に不安を抱きながら試行錯誤の連続だったと思ひます。ただ、その中で同窓会から編集協力者が得られたことは大変有難く感じました。

具体的執筆は六十二年夏休みから始まりました。授業はもちろん、担任、分掌業務等の校務を百%こなしながらやる作業なので、担当者にとつては実に重い仕事となりました。歩調もなかなか合わず心理的な切迫感にも悩まされました。こうした苦しさをもちながらも、六十三年度になると、校長、教頭を初めとして、各委員(中島、三谷、羽鳥、折茂、持田各教諭)はチームワークを固め、時間不足の中にも拙速に陥らないよう努めつつ仕事を続けていきました。

昭和から平成に変わった元年度、執筆もラストスパートの時期となり、併せて校正の作業も始まりました。そして

- (一) 式典並びに祝賀会
- (二) 行事と事業報告

- ① 校史九十年史の刊行
  - ② 棟間通路の完成 (権樹館と校舎を結ぶ)
  - ③ 図書館、視聴覚室、L教室、権樹館合宿室の冷暖房設備の設置
  - ④ 展示館建設(松樹館)
- 以上の多くの事業を、PTA、教育振興会、同窓会の協力により完成した次第です。

楽しくなごやかに盛り上がる  
平成元年新年会報告  
海上栄子(高13回)

平成元年度の新年会が、二月四日(日)に、高崎ビューホテルで行われました。曇りの寒い一日でしたが、百二十名の参加を頂き盛大に行われました。昨年は、昭和天皇の喪中のため、中止となつていました。

始めに、斎藤会長さんのお話、高宮校長先生の挨拶の中で、九十周年の校史発行に触れられ、「大変立派な宝が出来、名譽に思われる」とのお祝辞をいただきました。奈良部教頭先生のご発声で、乾杯をしました。今年も、お料理は、和洋中ミックスの円い中華テーブルスタイルで、立ち歩きが全員着席して祝宴が始まりました。

参加者は、着物姿の人や、

おしゃやかなスーツ等、お正月にふさわしい、華やかな会となりました。

アトラクションでは、高34回松原守恵さんの独唱で「初恋」他、また高29の高井美知子さんの独唱で「中国地方の子守歌」他を、歌って頂きました。伴奏は、高37回の下田晴美さんにピアノを弾いて頂きました。音楽会を、思い出させる様で、皆、うっとり聞き入りしました。

最後に全員で校歌の合唱をして閉会となりました。

閉会に先立って、幹事年の高13回の代表の挨拶があり、四月から引き継ぐ高14回の代表が紹介されました。

# 同窓会だより

## 旅行記

武井久子(高14回)

秋晴れの十月十五・十六日  
高女同窓会の旅行に参加しま  
した。

奥多摩湖から、丹波溪谷を  
抜け、九十九折りの道を下る  
と、目的地山梨です。信玄公  
ゆかりの恵林寺参詣後、石和  
の東洋宝飾店で美しい水晶に  
目をうばわれ、しばし買物を  
楽しみました。次は、ミレー  
の絵で有名な山梨県立美術館  
です。ミレーの作品は、「種  
をまく人」他数点の油彩画、  
「落穂ひろい」等のエッチン  
グが数点。他にも梅原龍三郎、  
藤田嗣治、小磯良平等有名な  
画家の作品が多数あり、充実  
した常設展が観賞できました。  
もう一度機会があったら、足  
を運びたい美術館です。

湯村温泉でゆつたりと楽し  
い一夜を過ごしました。翌日は  
清々しい朝もやの中を武田神  
社を参拝して、サントリー山  
梨ワイナリーの見学です。一  
房の葡萄が、香り高いワイン  
に変身する迄の、長く神秘的  
な道程を見学しました。これ  
からは、ワイングラスを手に  
する時、霊峰富士を眺めてい  
ただいたワインの味を思い出  
すことでしょうか。昇仙峡では  
記念撮影後、奇岩奇勝を眺め  
て荒川のせせらぎを聞きなが  
ら、昇仙峡上迄楽しく散策し  
ました。

山梨県へは初めて旅行をし  
ましたが、富士山をはじめ、  
南アルプスの山々に抱かれた  
甲斐国山梨は、大変印象に残  
りました。武田信玄公ゆかり  
の史蹟を市民が大切に守り、  
特産の葡萄、水晶細工に加え  
て、県民の為に大きな文化遺

産を着々と残しつ  
つある山梨県に、  
少なからず感銘を  
うけました。

二日間御一緒させていただ  
いた先輩の皆様が、一緒に若  
々しく、美しくあられたこと  
も大きな喜びです。先輩の姿  
を、これからの人生の励みに  
して、年を重ねたいと思いま  
す。最後に当番幹事の皆様の  
お陰で、充実した楽しい旅行  
ができましたことを、心から  
感謝いたします。

山梨県立美術館は、置県百  
年の記念事業として、昭和五  
十年秋に開館され、ミレーの  
コレクションで有名です。薄  
暗い館内には「種をまく人」  
「夕暮に羊を連れて帰る羊飼  
い」デッサンや版画等約四〇  
点も展示されてあります。

宿泊の湯村温泉ホテル湯伝  
に着きました。宴会は先輩後  
輩が一堂に会し、女学校時代  
を思い出し、昔口ずさんだ歌  
を歌い、当番期の用意した心  
ばかりのくじ引きを楽ししま  
した。宴会につきもののカラ  
オケはいつい無し、お隣り  
同士ゆっくり語りあうことが  
できました。それぞれの部屋  
でも飲み話に花がさい  
たのではなかったでしょうか。  
二日目は武田神社を参拝し、  
我が国最大のワイン専用自家  
ぶどう園を持つという、サン  
トリーワイナリーの、ぶどう  
の破砕から貯蔵までの行程を  
見学しました。山頂にはワイ  
ンの試飲コーナーが設けられ  
一杯いただきました。熱い  
ほほに気持ちよい風と眺めは、  
心をなごませてくれました。

最後の目的地である昇仙峡  
で、揃って記念撮影をし、め  
いめいが溪谷に添って遊歩道  
の散策に入りました。流れの  
楽しみ、風景を見、紅葉の時  
期は美しいだろうにと思いつ  
つ、約一時間、久しぶりに歩  
きました。

疲れた体を休め、ドライヴ  
インで昼食をとり、葦崎イン  
ターより清里、軽井沢を経て  
予定通りに高崎へ着きました  
二日間の日程を無事過ごすこ  
とができ、ほっと胸をなでお  
ろしました。

当番期として一生懸命準備  
したつもりでしたが、至らぬ  
ことのお詫びと、御協力下さ  
いました方々に感謝とお礼を  
申し上げます。

ありがとうございました。

きでした。

平成元年と年号も改まり、  
高女は創立以来九十年の歴史  
を重ねてまいりました。

去る五月一日に記念すべき  
式典並びに祝賀会が挙行され  
来賓の皆様から心暖まる祝辞  
を戴きました。続いて六月三  
日に同窓会総会が開催され、  
皆様に会長さんから賞状が授  
与されました。

## 期別通信

高尾まつ(28回)

「近くでゆつくり休む」を  
モットーに、新年会と春の旅  
行を楽しんでおります。農村  
の方々が作って下さる昔なが  
らの赤飯や煮物を車座になつ  
て戴くの、何よりの御馳走  
に、昔に返って思い出話に花  
を咲かせております。

終りに故郷を遠くにお過ご  
しの同窓の皆様御健勝を心  
からお祈り致します。

又記念事業の一つとして高  
女に関係ある沢山の方々から  
ご協力を戴きました展示館(松  
樹館)も立派に完成致しま  
した。陳列してある品々は初  
めて見る物も多く、明治・大  
正初期の先輩の方々が丹精込  
めた製作品の数々を始め、賞  
状、楯、賞杯などが年代順に  
整然と飾られ、九十年の歴史  
に感動すると共に身の引き締  
まる思いがいたしました。

音楽センターで行なわれた  
記念音楽祭では、出演の皆様  
の華やかな衣裳がライトに揺  
れて、幽玄的な雰囲気になり  
ました。その道を極めた方々  
なればこそ会場わんぱく  
の拍手でした。

美術展示会も同センター二  
階ロビーに美術部OGの方々  
の作品を飾り記念行事に華を  
添えました。丹精こめた作品  
の数々に沢山の参観者さまじ  
つて、子供連れの若いお父さ  
んやお母さんの姿も見られ美  
術への関心の高さを感じまし  
た。社会で立派な活動の場を  
持っている美術部後輩の皆様  
に支えられて私もおぼやらず  
から小品を出品致しました。

美術部の皆様には大変お世話  
になりました。

余白を借りましてクラス  
近況をお知らせ致します。私  
達二八回では、ここ数年前か  
ら幹事を一年毎の持ち回りと

し「近くでゆつくり休む」を  
モットーに、新年会と春の旅  
行を楽しんでおります。農村  
の方々が作って下さる昔なが  
らの赤飯や煮物を車座になつ  
て戴くの、何よりの御馳走  
に、昔に返って思い出話に花  
を咲かせております。

終りに故郷を遠くにお過ご  
しの同窓の皆様御健勝を心  
からお祈り致します。

又記念事業の一つとして高  
女に関係ある沢山の方々から  
ご協力を戴きました展示館(松  
樹館)も立派に完成致しま  
した。陳列してある品々は初  
めて見る物も多く、明治・大  
正初期の先輩の方々が丹精込  
めた製作品の数々を始め、賞  
状、楯、賞杯などが年代順に  
整然と飾られ、九十年の歴史  
に感動すると共に身の引き締  
まる思いがいたしました。

音楽センターで行なわれた  
記念音楽祭では、出演の皆様  
の華やかな衣裳がライトに揺  
れて、幽玄的な雰囲気になり  
ました。その道を極めた方々  
なればこそ会場わんぱく  
の拍手でした。

美術展示会も同センター二  
階ロビーに美術部OGの方々  
の作品を飾り記念行事に華を  
添えました。丹精こめた作品  
の数々に沢山の参観者さまじ  
つて、子供連れの若いお父さ  
んやお母さんの姿も見られ美  
術への関心の高さを感じまし  
た。社会で立派な活動の場を  
持っている美術部後輩の皆様  
に支えられて私もおぼやらず  
から小品を出品致しました。

美術部の皆様には大変お世話  
になりました。

余白を借りましてクラス  
近況をお知らせ致します。私  
達二八回では、ここ数年前か  
ら幹事を一年毎の持ち回りと

し「近くでゆつくり休む」を  
モットーに、新年会と春の旅  
行を楽しんでおります。農村  
の方々が作って下さる昔なが  
らの赤飯や煮物を車座になつ  
て戴くの、何よりの御馳走  
に、昔に返って思い出話に花  
を咲かせております。

## 期別通信

角田智恵子(39回)

私達は昭和十五年に卒業致  
しました。「さくら会」と称  
し毎年一回クラス会を持ち旧  
交を温めております。幹事は  
赤石民世さん、桜井英子さん  
と私です。今年も観音山錦山  
荘で十月十一、十二日、二十  
四名が出席し楽しい一日を過  
ごしました。開会にあたって  
先ず、いつまでも若々しい心  
と身体を保つことを希って、  
ストレッチ体操を学んだ後、  
母校、同窓会、クラスの人達  
の近況、会計報告等があり引  
続き宴に入りました。女学生  
時代の気持ちに帰って和気藹  
々時代の経つのも忘れ夜遅くま  
で語り合いました。

翌朝車に分乗して母校を訪  
れ、完成したばかりの記念展  
示館を見学しその立派さに目  
を見張り懐かしい思い出あふ  
れる展示品の数々に感嘆しまし  
た。微力ながらも松樹館建  
設の一端を担った喜びを噛み  
しめました。併せて椎樹館も  
見学し記念のスナップ写真を  
撮り、母校の益々の発展を祈  
りながら帰路につきました。

卒業して今年も丁度五十年  
になります。遙か昔、冬の晴  
れた日は霜柱立つ校庭に出て  
泥まみれになって蹴球をした  
こと、ストコフスキーとデイ  
アナダービンの「オーケスト  
ラの少女」を全校生徒で観賞  
した時の感激等、懐しく思い  
出されます。同級生の方達も  
既に子育ても終り、夫々の技

術(舞・俳句・茶華道・音楽・  
人形作り等)を磨かれておら  
れますが「一期一会」を大切  
にし、苦楽を共に出来る友で  
ありたいと希っています。

私は高女の校歌が大好きで  
す。これからも終生の訓とし  
て慈んで唱って行きたいと思  
います。

黒田清子(43回)

43回生(翠麗会)は、親睦  
と研修を目的とした旅行を毎  
年行なっています。還暦祝  
にハワイ旅行を」という会員  
の声により、一年半前より準  
備が進められ、平成元年九月  
九日・十四日の四泊六日のハ  
ワイ旅行実施となりました。

当初三十名の予定でしたが、  
参加を希望しながら病に倒れ  
た方、病気で止りなされた方、  
家族や家庭の都合で参加でき  
なくなつた方と色々ありまし  
て、最終的にはアメリカ在住  
の会員一名の参加も得て二十  
三名となりました。

ホノルル空港に着いて先ず  
明るい太陽のもとカラッとす  
いた空気に南国の気分を満喫し  
ました。市内観光で、町中に  
看板が見当たらず市街が美し  
いこと、バスの中の飲食禁止  
といったクリーン作戦に感心  
し、色鮮やかな花々に目を奪  
われました。ホテルでアメリ  
カ本土より参加の友と感激の  
対面後、それぞれがドレスア  
ップを凝らして若々しい雰  
気度ハワイアンテイナリーシ  
ョーを楽しみました。

カウアイ島めぐりでは、シ  
ダの洞窟・ワイメア峡谷の自  
然のすばらしさに、ハワイ島  
めぐりでは、黒砂海岸の美し  
さ、キラウエア火山火口湖の  
雄大さに感嘆の声があがりま  
した。真珠湾クルーズでは、  
美しい青い海に今も残る、あ  
の昭和十六年十二月八日(当  
時私達は二年生でした)の戦  
跡を見学しました。ホノルル

空港でもそうでしたが、行く  
先々に日本人が多いので、国  
内旅行をしているような錯覚  
を起こすくらいでした。

ワイキキの浜の散策、シヨ  
ッピングと楽しい思い出に楽し  
み、学生時代に戻つたような気持  
ちでした。日頃の体操の成果  
か?大いに健脚振りを発揮し、  
なかなか行動的でした。

ワイキキの浜で眺めた月が  
一日毎に丸みを増し、成田帰  
着の日にはあとも十五夜でし  
た。帰途、名月を仰ぎ無事の  
帰国を喜び合いました。

満ちて行く月に郷愁ハワイ  
の夜  
清子  
名月に逢へし安緒の旅日記  
初枝

(翠麗会 翠句会作品より)  
初めての海外旅行が無事に  
かつ楽しく終了できましたこ  
とを当番として心から感謝い  
たします。



岸 数子(高13回)

十月十五・十六の両日、恒  
例になりました同窓会の研修  
と親睦を兼ねた、一泊二日の  
バス旅行を、奥多摩・甲府方  
面へと実施いたしました。

齊藤会長はじめ四十五名は、  
高崎駅東口を八時に出発し、  
関越道をぬけ青梅街道に入り、  
東京の水源地小河内ダムに着  
きました。奥多摩の素晴らしい  
自然と湖、澄んだ空気を胸  
いっぱい吸い込んで、バスは  
狭い山路を武田信玄の菩提寺  
恵林寺に向います。

参詣をして寺院の中や、名  
勝といわれている心字の池を  
中心とした庭園を見物し、郷  
土料理ほうとうの昼食をいた  
だきました。石和の東洋宝飾  
では、水晶の加工所を見学し、  
売店で装飾品を選ばしなが  
ら、買物はとても楽しいひと

と

と

と

と



四十四年ぶりの修学旅行

武者きく子(45回)

私達45回卒業生(昭和二十  
一年三月卒業)一行は、十一  
月十六日から十八日まで二泊  
三日の日程で、京都へ修学旅  
行に出かけました。参加者は  
総勢六十七名。

これまで一泊旅行の同期会  
を毎年つづけてきましたが、  
お互いに還暦を迎えた人生の  
節目の年を記念して修学旅行  
をしたらという案が出て、幹

事一同が一年前から周到な準  
備をして実現したものです。  
一日目は三井寺、延暦寺を  
巡り、夜は懐石料理を賞味し  
ました。二日目は午前中嵯峨  
野の散策、午後は金閣寺と広  
隆寺の二手に分れて参詣し、  
夜は京料理と祇園島原コース  
をまわりました。三日目は大  
原の三千院・寂光院や大徳寺  
・清水寺への参詣と盛り沢山  
な日程でした。

観光バスの中はまるで小鳥  
たちの囁りのように楽しい話  
らいがつづきました。お互い  
に制服姿の頃が蘇り一層のな  
つかしさを覚えました。懐石  
料理を賞味しながらの宴会で  
は、芸達者なみなさんがいろ  
いろ披露して、笑いどよめ  
きが会場に湧き返り、乙女の  
時代に戻つた気分になりました。  
今年も暖かい日が多かつ  
たせいか紅葉の色づきが足り  
ないのが残念でした。観光シ  
ーズンまっさかりで、どのこ  
寺でも高校生の団体を数多く  
見かけました。そして、あの  
人達と四十余年前の私達の制  
服姿を重ね合せて、現在の平  
和な時代の有難さを感じまし  
た。今回の旅行ではお身体の  
不自由な方々も積極的に参加  
され、事故もなく元気に旧交  
を温めることができました。

毎年同期会がつづいているの  
も戦時下、共に学んだ仲間意  
識と、いつもお世話役として  
回生のために献身的にお骨折  
りいただいている村田喜代子  
さんや下田和子さんらのご努  
力があったからだと思います。  
旅の途中、高女九十周年の  
記念のテレホンカードが村田  
さんから紹介され、忽ち百枚  
が購入されました。  
旅の終りには来年の再会を  
誓って別れました。中島孝子  
さんの詠まれた一句を最後に  
ご披露してペンを擱きます。  
「還暦の乙女にかえる  
古都の秋」

### 松樹館募金の報告と御礼

母校創立90周年記念事業につきましては、多くの方々のご賛同をいただきました。募金額 15,337,250 円が集まり、記念事業実行委員会へお渡しいたしましたので報告し厚く御礼申し上げます。平成2年3月24日

#### ◎卒業期別 受入明細 (単位万円)

卒期	金額	卒期	金額	卒期	金額	卒期	金額	卒期	金額
特別	93	30	15	42	35	高5	40	高17	30
14	12	31	15	43	48	高6	40	高18	30
18	1	32	15	44	40	高7	44	高19	30
21	6	33	15	45	44	高8	40	高20	30
22	16.3	34	19	46	40	高9	44	高21	5
23	10	35	18.9	47	40	高10	44	高22	13.1
24	15	36	25	48	40	高11	44	高23	26
25	14	37	25	49	40	高12	40	高24	9.2
26	10	38	25	50	40	高13	39	高25	24.2
27	11.4	39	25	51	44	高14	39	高26	20
28	15	40	30	52	44	高15	39	高27	4.5
29	17	41	30.1	53	44	高16	30	高29	15



## 事務局 だより

### 同窓会総会開催のお知らせ

新緑の候、同窓生の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

下記により、総会を開催いたしますので、お誘い合わせのうえ多数ご参集くださいますようご案内申し上げます。

#### 記

日時 平成2年5月1日(火) 12時～

場所 母校 椎樹館

日程 12:00～13:00 昼食

13:00～13:40 総会

14:00～15:00 講演

講師 母校・教頭

奈良部清満先生

会費 1,000円

※期別幹事は必ず1名は出席下さい

#### ◎平成2年度行事予定

月日(曜)	行事名	会場
5月1日(火)	総会及び講演	母校椎樹館
10月14日(日)	研修旅行	水戸(五浦海岸)方面
15日(月)		
2月上旬	新年会	高崎市内
3月上旬	新会員入会式	母校椎樹館
3月下旬	会報5号発行	

※会議 (1)期別幹事役員会 6月、9月

(2)常任幹事会 随時

総会・旅行・新年会へ皆様お誘い合

わせて御参加ください。

申し込みはそれぞれの期別幹事です。

### 同好会の紹介

#### 〓 どんぐり会? (ゴルフ)

細谷恵子 (高11回)

いつも十一時頃になると郵便物を持って一服しに帰って来る主人がいなくなり「高女のどんぐり会、よく返事がくるし、会員も増えるなあ」と感じ、心して手渡ししてくれました。そう、この葉書を受け取る様になってからまだ十ヶ月なのです。昨年より群馬県下高校OG対抗ゴルフ選手権大会が始まり、高女からも5人だすことになり、その選手集めに苦労した結果がこのゴルフ同好会結成のきっかけになりました。



「椎樹に関係ある名と腕の方もどんぐりの背比べの様なものだろう」からと決り、二ヶ月間でなんと24人が集まってコンペを始めました。こんな調子でしたから現在の隆盛は夢の様です。何かと相談のつて下さった村田喜代子様、糸井倅様、小山八重子様、

に会長、副会長をお願いして、現在56名が年四回コンペをしています。上級生、下級生、同期生と久し振りの顔合わせに近況に花が咲いて、スコアはつねに「次回にガンバリます」です。一日中若返って楽しんでます。ゴルフを始められた方は進んで御入会ください。お待ちしております。

※連絡先

富岡市富岡一三七五

細谷

(〇二七四六二一〇〇三二

二

### 同窓会維持費 中間報告

(平成2年2月20日現在)

#### 【収入の部】

維持費納入金 8,707,680円  
(手数料差引き)  
会報広告代 50,000円  
預金利子 161,163円  
計 8,918,843円

#### 【支出の部】

維持費趣旨書印刷代  
及び発送料 1,024,080円  
椎の樹(創刊号、2号、3号)印刷代及び発送料  
4,096,250円  
本部会計補助 1,500,000円  
(3年分)  
事務用品 102,480円  
会議費 98,142円  
その他 28,000円  
(生花、感謝状送料等)  
計 6,848,952円

#### 【差引き残高】

8,918,843円  
- 6,848,952円  
2,069,891円  
定期預金に 1,000,000円  
普通預金に 1,069,891円

### 90周年記念 OG書道展

新井京子 (高6回)

大変嬉しく感謝いたしました。生徒さんが運んでくださったパネルに全員で陳列した。二日間でしたが同窓会長斎藤民先生にもご観賞いただけました事、心に残ります。

新しい記念館の松樹館で展示物の長い歴史に触れ改めて先輩諸氏の立派さ、歩みの確さに高女の重厚を感じました。そして皆様に感謝しつつ和やかな雰囲気の中で幕閉じすることができました。

第三回展は、高崎市や商店会等の共催の『春のフェスティバル』に便乗して開いてみました。三月下旬から五月上旬まで、音楽センター前広場では種々のイベントが次々に繰り広げられ、二階ロビーには、パネル壁が造られて写真展やロー画展、映画ポスター展が順に展示され、OG絵画展は五月三日から七日まで開催いたしました。90周年記念音楽会が七日にホールで開かれることにタイミングを合せた日取りでした。おかげさまで七日には同窓生のみならず在校生の皆さんにも多数おいでいただき幸いでした。初日には展示後、昼食会を兼ねて懇親会を持ちました。最年長の高尾さんを中心に、発足のきっかけとなった80周年記



### 高女OG 絵画展

勅使川原正代(高11回)

念展示の時から現在までの思い出話に花を咲かせ、第四回の幹事に角田、新、落合の三人を決め、今後も若いOG会員の参加を期待して和やかなうちに開会いたしました。今回は出品者名が案内ハガキに載りませんでした。全員集合写真をご覧下さい。



### あとがき

秋風の吹きはじめた頃に、準備に入った第四号会報も、母校創立九十周年記念号として、発刊の運びとなりました。おいそがしい中、原稿をお寄せ下さいました皆様に、厚く御礼申し上げます。

### “松の会”誕生

武藤静代(37回)

この会をもっともつと楽しいものにしていく為には、身近なテーマを取りあげて、健康相談や健康体操と合わせて、編み物や美味しい漬物作りなど、幅広くやっていきたいと思っ

張切り過ぎて脱線しない様、慎重に企画していこうと思う。同級生の皆様、進んでこの会にご参加下さい。

編集委員長 吉野烈子(高9回)